



令和 6 年 1 月 30 日

三豊市議会議長 浜口 恭行 様

議会広報委員長 田中 達也

## 委 員 会 調 査 報 告 書

本委員会に付託された事件について、調査の結果を下記のとおり、  
三豊市議会会議規則第 110 条の規定に基づき報告します。

### 記

#### 1 調査事件

	視察先	調査事項
1	岡山県美咲町議会	議会だよりについて YouTube 動画配信について
2	京都府南丹市議会	議会だよりについて

#### 2 研修者

委員長 田中 達也  
副委員長 近藤 武  
委員 丸戸 研二 石井 勢三 市川 洋介  
湯口 新 瀧本 哲史  
事務局（随行） 坂田 茂香

#### 3 調査の経過及びその概要（別紙 1 のとおり）

#### 4 委員所感（別紙 2 のとおり）

## 1、 美咲町議会

(1) 日時 令和 5 年 11 月 8 日（水）午後 1 時 15 分から午後 3 時まで

(2) 調査案件 議会だよりについて、YouTube 動画配信について

(3) 対応者

議長	松島 啓 氏
議会広報委員会委員長	三船 博之 氏
副委員長	松田 英二 氏
委員	中西 伶王 氏
委員	矢吹 一郎 氏
委員	板垣 正寿 氏
委員	左居 喜次 氏 副議長
議会事務局事務局長	水島 寛之 氏
書記	山本 大輔 氏
事務	池上 恵 氏

(4) 調査の経過

美咲町議会議場において、松島美咲町議会議長、三船議会広報特別委員長の歓迎のあいさつ、本市議会の田中議会広報委員長のあいさつ、両市議会の委員の自己紹介の後、三船美咲町議会広報特別委員長を中心に、議会だよりについてと YouTube 動画配信について、説明を受けた。その後、質疑応答を行い、最後に、近藤三豊議会広報副委員長のお礼のあいさつ、松田美咲町議会広報特別副委員長からのあいさつにより、閉会した。

(5) 調査結果

美咲町議会の議会広報特別委員会は、意欲のある 6 人の議員により構成され、発刊ごとに、平均 5 回程度の編集会議を開催している。町村議会広報全国コンクールでこれまで奨励賞を 2 回、令和元年度には優良賞を受賞し「議論を経て政策が決定されるまでの過程がよく整理されている」と評価された。一般質問のタイトルは 15 文字以内で、質問の趣旨が分かり、イ

ンパクトがあるもの、写真のキャプションは興味を引くようなものを心がけたり、町民参加のページをつくり、町民が行政・議会に興味を持ちやすくしたりし、議会だよりに親しみを持ってもらえるよう工夫している。

また、メディアミックス構想を掲げており、議会だより、議会ホームページ、みさきテレビ、告知放送、データ放送、情報発信アプリ、YouTube、プレスリリースなど、さまざまな手段により、情報を発信することで、デジタルデバイドのない「誰一人取り残さない×伝わる議会」を目指している。なお、YouTube 動画配信については、みさきテレビで放送したデータを YouTube にアップしている。

それに加え、広報や政策への助言や提言をする議会アンバサダー制度を取り入れている。美作大学・同大学短期大学部とSDGs パートナーシップ包括協定を締結したことを機に、大学生や高校生 30 人ほどを任命し、活動してもらっている。

このように、アンバサダー制度のほか、小中学校・高校・大学との模擬議会や意見交換会の開催、議員のなり手不足解消に向けた広報活動や研修会といった取り組みが評価され、第 18 回マニフェスト大賞で議会改革賞優秀賞に選ばれている。



▲美咲町議会での研修の様子

## 2 南丹市議会

(1) 日時 令和 5 年 11 月 9 日 (木) 午前 10 時から 11 時 30 分まで

(2) 調査案件 議会だよりについて

(3) 対応者

### 広報広聴委員会

委員長	平田	聖治	氏
副委員長	山下	秋則	氏副議長
副委員長	塩貝	孝之	氏
委員	吉田	壽子	氏
委員	下間	康広	氏
委員	河野	啓介	氏
委員	木戸	徳吉	氏
委員	木村	裕	氏

議会事務局長 森 康高 氏

議会事務局 大嶋 友子 氏

(4) 調査の経過

南丹市役所 3 号庁舎 2 階第 4 会議室において、南丹市議会平田広報広聴委員長のあいさつ、本市議会の田中議会広報委員長のあいさつ、両議会委員の自己紹介の後、南丹市議会平田広報広聴委員長を中心に、議会だよりについて、説明を受けた。その後、質疑応答や意見交換を行い、最後に本市議会近藤議会広報副委員長がお礼のあいさつを行った。

(4) 調査結果

南丹市議会の広報広聴委員会は、各常任委員会副委員長 3 名および各会派から 1 名の合計 9 名で構成されており、発刊ごとに 5 回の校正のための委員会を開催している。令和 5 年 7 月に大幅なりニューアルを実施。議会と市民を結ぶ懸け橋として、市民に読みやすく分かりやすい紙面づくりを目指している。特集は、市内で活動している団体もしくは個人に議員が取材を行い、

写真も撮影。表紙写真も特集とリンクされており、市民が議会だよりに登場することで、関心のなかった議会だよりに興味を持つきっかけを提供している。また、「議会に望むこと」を聞き取りする等、議会広報紙としての切り口を大切にしている。一般質問については、文字数を 440 字以内で 2 分の 1 ページとし、質問は基本 1 問を取り扱うこととすることで、すっきりとしたレイアウトになっているほか、見出しの QA をそれぞれ 21 文字以内、「～について」はできるだけ使わないようにすることで、記事の内容が一目で把握できるように工夫されている。討論も全て掲載。執筆は討論者本人が要約する。また、写真を多く掲載することで、記事の理解度向上の一助にもつながっている。令和 3 年に、親しまれる紙面づくりを進めるためにアンケートを実施し、その結果をリニューアル時に、生かしている。議会の仕組みを紹介するコーナーの新設もそのひとつで、ほかにも、専門用語には注釈を付けたり、言い換え可能なものは平易な表現に変換したりすることで、議会は難しいという先入観を払拭してもらい、新たな読者の獲得を目指している。



▲南丹市議会での研修の様子

### 3 視察を終えて

岡山県美咲町議会では、社会のデジタル化、脱炭素化に対応し、広報紙だけに頼らず、あらゆる世代に情報を届けられるよう、メディアミックスで取り組んでいる。また、広報紙の要約告知を動画で配信しており、その撮影と編集は地元ケーブルテレビに委託することで、高い品質を保っている。

地元の大学・高校との連携により実施している議会アンバサダー制度では、広報紙を読んでもらった学生の感想を誌面にフィードバックすることや、学生にSNSでの情報発信の起点になってもらうことで、効果を上げているとのことであった。

京都府南丹市議会では、広報紙リニューアルしており、文字数を少なく写真を多くすることで読みやすさを追求している。一般質問は大見出しを簡潔な Q&A で書くことにより、視線を惹きつける工夫がされている。

また、定例会の報告の中で、議案に対する反対・賛成の理由が述べられる審査上の重要なプロセスである「討論」を要約し、掲載している。

視察を終えて開催した委員会では、早速採用する取り組みについて検討を行い、討論の掲載については直ちに行うこととした。その他の多くの取り組みについても、前向きに進めることとしてまとめた。



▲美咲町議会だより（左）となんたん市議会だより（右）

## 議会広報委員会行政視察研修 所感

委員名

田中 達也

【岡山県美咲町議会】2023年11月8日（水）

議会広報を通じたデジタルディバイド解消への取り組み

社会のデジタル化、脱炭素化に対応し、デジタルディバイドに取り組んでいる。あらゆる世代に議会を見てもらえるように、議会だよりを中心にメディアミックスで広報に取り組んでいる。

## ●YouTube

## ●Instagram

YouTube を見た、Instagram を見たという町民からの声が、議員のモチベーション向上にもつながっている。

## 【所感】

デジタルディバイドとしてメディアミックスに取り組むという発想はなかったもので、大変参考になった。

どちらかといえば、デジタルで広報を提供する前段でデジタルディバイド解消が必要になると考えていたが、先にさまざまなメディアで提供することが、ディバイド解消につながるという考え方と受け取った。

積極的に取り組む必要がある。

YouTube 動画について

議会だよりの内容を要約して動画で紹介。

原稿は委員長が書いて配布し、担当者が個々に調整。

撮影・編集はケーブルテレビが行う。

## 【所感】

議会だよりを手にとってもらうために、短い動画で何が書かれているのかについて告知する手法には、SNS での拡散も併せて取り組めば、効果が期待できると考える。

しかしながら、撮影・編集をプロに任せるとなれば、費用対効果の面で疑問が残る。実際に取り組むとなれば、スマホで撮影し、誰にでもできるアプリ上での編集を経てリール動画として投稿する程度が望ましいと考える。

### オフィシャル Instagram について

議会活動の内容をタイムリーに配信。

担当の委員が記事を作成。

議長・副議長も入ったグループ LINE に投稿することで、即時に決裁を得る仕組みになっている。

この仕組みは、委員会で事前に取り決めている。

#### 【所感】

SNS でタイムリーな投稿をしようとした場合、議会からの情報発信は議長権限であることから、決裁スピードが最大のハードルと言える。

そのため、グループ LINE を使った速やかな決裁手続きは、極めて有効であると考ええる。

SNS に限らず、速やかな決裁については、多くの部分で取り入れるべきである。

### 議会アンバサダー制度について

美作大学と議会で SDGs パートナーシップ包括協定

美作高校とも連携

- 町村議会と大学の連携は全国的にほとんどない。
- スケジュールは学生の負担にならないように、年 2 回程度。
- ファシリテーション研修も実施している。

学生にアンバサダーを委嘱

- 広報を読んでもらう。
  - 内容に対する意見をもらう。
  - SNS で議会の情報を発信する基点になってもらう。
- 始めたばかりであり、成果についてはこれから。

#### 【所感】

議会広報の大きな課題として、若者世代に届いていない(興味を持ってもらえない)ことが挙げられる。

学校との連携の中で、役割として議会の情報に触れる機会を持つことから、市政に対する興味を持つことに繋がると考える。

また、そこを基点に SNS で拡散されることにより、同世代への主権者教育につながると考える。

三豊市議会においても実施すべき取り組みであると考ええる。



【京都府南丹市議会】2023年11月9日（木）

#### 議会だよりのリニューアルについて

文字数を少なく、写真を多く活用することで読みやすくした。

委員会とは？一般質問とは？などの解説を毎号掲載。

一般質問のレイアウト

レイアウトを固定化

それぞれが一番見てほしい Q&A をそのまま見出しに。

400 字で、基本的には 1 問をピックアップして掲載。

文字数をオーバーしないのであれば、小見出しをつけて複数問の掲載も可。

掲載しなかった質問のタイトルを「その他の質問」枠に掲載。

本会議審査報告

討論を掲載

議案名そのものではなく、市民にわかりやすい見出しを採用

委員会審査報告は、Q&A 形式で掲載

#### 【所感】

文字数を少なくし、余白を増やすことで、非常に見やすく仕上がっている。

一般質問の見出しを Q&A 型にしていることで、視線を誘導する効果が高く、採用すべき。

本会議での討論については、議案に対する賛成・反対の意見が述べられる重要な点であることから、採用すべき。

#### 編集過程のデータは、ネットワーク共有フォルダに

委員個々の PC をネットワークに参加させることで、原稿や編集過程のデータをネットワークストレージで共有している。

#### 【所感】

三豊市議会の場合、原稿はメールで事務局宛に送付されており、それが印刷業者に入稿され、レイアウトされた後、Sidebooks に掲載されたものを、広報委員が初めて見ることになる。

クラウドストレージを活用することで、委員が過程を直接目にするができるようになり、作業効率は格段に上がると考えられる

しかしながら、庁舎内の Wi-Fi 環境では、クラウドストレージへのアクセスが制限されているため、このままでは導入が難しい。

貸与されているタブレットをさらに活用していく意味でも、オフィスアプリケーションやクラウドストレージを導入することには大きな意義があり、進めるべきである。

※所感の提出については、メールまたは USB 等によるデータで事務局に提出ください。

## 議会広報委員会行政視察研修 所感

委員名

近藤 武

- 1、研修日程 令和5年11月8日(木) 13:30~15:00  
 2、研修先 岡山市美咲町議会  
 3、研修目的 議会広報と町民とデジタルディバイドのない議会を目指す取り組み  
 4、研修所感

掲載内容や編集工程などは本市と多くは変わらないが、編集で特に気をつけているところは、見やすく、わかりやすく、簡潔な文章、行政用語や難しい熟語など使わないこと、写真を多めにして空間をとり見て疲れにくい紙面づくり、内容が分かるような見出し、興味をひく写真のキャプション、町民参加のページづくり(出前議会)などである。大きく違うところはフルカラーでないところと、一般質問のページは1人1ページ使用可能であること(本市は半ページ)、タイトルを付けることや文字数はかなり少ないのですっきりとして読みやすく仕上がっていることなど。

また、令和3年より「美咲町議会メディアミックス構想」として、議会だより、議会ホームページの他、みさきTV、告知放送、データ放送、情報発信アプリ、YouTube、プレスリリースといった多様な手段で積極的に発信をしていくことで、町民とのデジタルディバイドのない議会を目指して取り組んでいる。

美咲町は議会だよりのなかでアンケートを掲載することによって町民とのつながりの役割を持たせようとしている。また発行に合わせて動画配信の制作を行っており、町独自ケーブルTV局である「みさきTV」があるため、撮影・編集の技術は非常に優れたものにもかかわらず費用はかかっていない。みさきTVで放映したものをそのままYouTubeの議会チャンネルにアップしており、放送内容は議会だよりの内容も含んだ告知的なものである。動画は議会広報特別委員会の委員が出演し、シナリオ作成と配役も決めている。だれにでも手に取って、読んでもらえる議会だよりの作成と、いかにして市民参加のまちづくりに繋げることができるのか、これからもしっかり考えていく必要がある。

- 1、研修日程 令和5年11月9日(木) 10:00~11:30  
 2、研修先 京都府南丹市議会  
 3、研修目的 広報紙リニューアルについての重点箇所、調整箇所等と広聴活動  
 4、研修所感

南丹市の議会広報紙は大きくリニューアルし、光沢のある紙と全面フルカラー、編集方針として議員と市民を結ぶ架け橋となるような、読みやすく、分かりやすい紙面を目指す取り組み、表紙と特集は地域で頑張る人たち、定住支援や文化活動、農業、ボランティア活動をテーマとして議員が撮影し取材している。

一般質問は半ページの割り当てで本市と同じであるが、文字数については3分の2程度に収めていて、すっきりし、読みやすい。余白や、どの年齢層に向けての紙面づくりかについては、アンケート調査で、60～50代が半数であったため、より若い層に向けてサッと読めるように気を付けた。また煩雑する議案名や討論などについても文字数を減らすことを考えた。

リニューアルにあたり特に気を付けた点は、紙面づくりにおいて一体感を出すこと、色遣いなど統一感を持たせたことである。

広聴委員会としての取り組みは、市民とのつながりとして「南丹未来会議・普段接することのない世代にスポットを当てる」、「出前でおしゃべり青空議会・市内での各種イベントに参加」、「なんたん円卓会議・従来の報告会ではなく気軽に意見交換ができる場」、この3つの事業を今期計画している。

南丹市は議会広報をリニューアルすることにより、幅広い年齢層に受け入れてもらえるように、「市民と議員を結ぶ架け橋」と考え、現状に満足せず、市民の声を大切にしながら、これからも継続的に改良し取り組んでいくとのこと。本市の議会だよりも本当に市民の一人一人に手に取ってもらい、読みやすく市民参加を促すことのできる紙面にすることが必要であることを学んだ。

※所感の提出については、メールまたはUSB等によるデータで事務局に提出ください。

## 議会広報委員会研修所感

委員名	丸戸 研二
<p>1. 研修日程 令和5年11月8日(水) 13時15分～15時</p> <p>2. 研修先 岡山県美咲町議会</p> <p>3. 研修目的 議会だよりについて YouTube 配信について</p> <p>4. 研修所感 【対応いただいた議員】 議長 松島 啓(ひろむ) 副議長 左居 喜次(さこ よしつぐ) 議会運営委員会 委員長 松田 英二 議会広報特別委員会 委員長 三船 博之 議員 板垣 正寿(まさとし) 議員 矢吹 一郎 議員 中西 伶王(れお)</p> <p>(1)何が受賞に結び付いたのか 過去3回受賞しているが、その原因に対する認識は、研修を年1回実施、クリニックは2年に1回実施、写真は事務局に手伝ってもらっており、このような研鑽の積み重ねが受賞に結び付いたとのことである。</p> <p>(2)議会 ambassador について 美咲町では、地元の大学や高校と協定を締結し、学生に ambassador を委嘱して SNS で発信をしてもらう仕組みをつくっている。 Ambassador とは、日本語に訳すると「大使」や「使節」という意味になるとのこと、一つの概念として、組織や企業からの依頼を受け、公式に「宣伝大使」として広報活動や普及活動を行う人ということらしい。 また、ambassador との契約は、基本的には無報酬であり、喜びを感じて自ら発信できる人という形が想定されているようである。 議会活動や議会からの情報発信などは、常に、主権者である市民や読者から見て「読んでみたい」「読みやすい」「よく分かった」というものである必要があり、そのためには、市民目線による客観性や、できるだけ幅広い年齢層の意見を取り入れるなどの試みが求められるのではないかと考える。</p>	

三豊市としても、地元の大学や高専、高等学校と協議を行い、議会活動、議会広報、ホームページなどに対し、客観的な意見を聞く機会を設けるとともに、議会からの情報発信について、インフルエンサーとして拡散していただくことができないものかと考えさせられる研修であった。早急に企画案を調整し、議長の決裁を受け、具体的な取り組みに着手すべきではないかという思いを大きくするものである。

### (3) デジタルデバイドの解消

市議会議員のデジタル習熟度については、大きな幅があるのが現実である。この幅をいかに小さくするかは一つの課題ともなっている。議員個人の努力もあるが、議会としてこの問題にどう取り組むかも問われている。

美咲町では、自分のやりやすい形でやれるところから始めている。また、取り組みの一環として、ホームページから音声による広報にも取り組んでおり、目の不自由な方への対策もしている。

三豊市においても、内外のデジタルデバイドに取り組むべきであり、特に、議場へのモニター導入を目前に控え、議員個々のデジタルに対する習熟度を高めるとともに、議会からの情報発信についても、障がいを持つ方への対策なども当然の時代の要求ではあるまいかと考える。

## 1. 研修日程

令和5年11月9日(木) 10時～11時30分

## 2. 研修先

京都府南丹市議会広報広聴委員会

## 3. 研修目的

議会だよりについて

## 4. 研修所感

## 【対応いただいた議員】

副議長 山下 秋則

議員 吉田 壽子

議員 塩貝 孝之

議員 平田 聖治

議員 木戸 徳吉

議員 下間 康広

議会事務局長 森 康高

提供された資料では、平成18年1月1日に旧4町が合併して「南丹市」となっている。人口は合併当初36,176人であったものが、令和5年4月1日には30,242人となり、合併から約17年を経過して5,934人、合併時から6分の1の人口が減少することとなっている。

財政状況としては、令和5年当初予算時点で一般会計の予算規模は251億5千万円で、主たる歳入は、地方交付税が93億円、市税が40億49,630千円、市債が32億93,90万円となるなど、依存型であり厳しい状況が伺える。

広報部門については、提供された資料と事前質問に対する回答によっておよそ把握できるため、広聴部門について若干の確認を行った。

南丹市の取り組みは次の3件である。

## ○なんたん未来会議

高校生など22歳までの市民を対象に実施している。

テーマを設けて実施しているが、開催実績はこれまで1回である。

## ○出前でおしゃべり青空議会

イベントなどの機会をとらえて行っている。3回開催。

## ○なんたん円卓会議

まだ実施していない。

議会報告会のような広聴部門については、南丹市も同様に、参加人数が少なかったり、参加者が偏ったりという課題を抱えているようである。

そのような現状を打破するために3件の広聴会議を企画しているものの、うち2件は1回と3回の計4回の実施、あとの1件は未実施となっている。つまり、広聴部門

が議会からの情報発信や情報収集、また、政策立案など議会機能の一部を担うような形でシステム化はされていないようである。

議会報告会のような取り組みは単独で百点を取ることは難しい。従来型の対面による報告会も継続しつつ、議会ホームページからの情報発信とメールやチャットなどによる情報収集、各種団体との意見交換、zoom 会議の実施、ambassador 制度の導入など多様な方法を駆使しながらの総合的な取り組みにより、安定的な広報・広聴システムを確立するよう試みを行うべきかと考える。

## 議会広報委員会行政視察研修所感

議員名	石井 勢三
研修日程 令和 5 年 11 月 8 日（水）～ 9 日（木）	
1. 研修先	
岡山県美咲町 （11 月 8 日(水) 13 : 15 ～ 15:00）	
研修目的	
議会だより、YouTube 動画配信について	
研修所感	
<p>美咲町議会だよりは、平成 17 年 8 月に創刊し、議会広報全国コンクールにおいて、平成 20 年度に奨励賞（12 号）、平成 26 年度に奨励賞（35 号）、令和元年度に優良賞（56 号）と数々受賞されている。広報委員会は 6 人で構成され 1 回の発行に平均 5 回程度委員会が開催され、A4 版で年 4 回（定例会翌々月 10 日）、約 5800 部発行している。</p>	
特に気をつけているところ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 見やすく、わかりやすく、簡潔な文章</li> <li>◆ 行政用語や難しい熟語などつかわない</li> <li>◆ 写真を多めに（各ページ 2 枚程度）</li> <li>◆ 空間をとり、見て疲れない紙面づくり</li> <li>◆ 内容が分かるような見出し</li> <li>◆ 興味を引く写真のキャプションを</li> <li>◆ 町民参加のページづくり</li> </ul>	
<p>また、市民の声を把握するために、出前会議、議会アンバサダー、ケーブルテレビ、ユーチューブ、インスタグラムを活用したメディアミックスによる情報発信に取り組んでいる。</p>	
YouTube 動画配信について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ みさきテレビで放送したデータを事務局で YouTube にアップしている。</li> <li>◆ 町民の人から議員に、声がかかるようになった。</li> <li>◆ メディアミックス構想を掲げ、あらゆる手段を使って町民の人に議会を理解していただいている。</li> </ul>	
<p>美咲町議会だよりは、余白をしっかりと取り、特に写真を多めにとても見やすい構成となっている。一般質問の各自のタイトルは、わかりやすい見出しとなってスッキリとしている。難しい言葉はできるだけ使用せず、読みやすくなるよう工夫されている。改めて、三豊市議会だよりを振り返り、ひとつからでも取り入れる必要があると感じた。</p>	



## 2. 研修先

京都府南丹市 (11月9日(木) 10:00 ~ 11:30)

### 研修目的

議会だよりについて

### 研修所感

なんたん市議会だよりは、平成18年5月に創刊号「市議会だより なんたん」を発刊。平成29年1月(44号)リニューアル、「頑張る人たち」を巻頭企画にするなど大幅なレイアウトを見直し、令和元年5月には、議会と市民を結ぶ「架け橋」になるようにと思いをこめ「市議会だより かけはし」へと名称を変更。また、令和5年7月(70号)では全面フルカラーへと読んでみたくなる議会だよりを目指してリニューアルをしている。定例会ごとに念4回、各区長を通じ全戸配布、ホームページにも掲載。広報広聴委員9人全員で、1回の発行につき、委員会を5回開催している。

### 作業効率化のための取り組み

- ◆ 原稿はデータ (Word 形式) で提出
- ◆ 議員へ原稿執筆を依頼する際、文字数の厳守などの注意事項を明記
- ◆ 部会での編集作業は、個々の PC のネットワーク化を図り、作業工程が随時確認できるように設定

### 市民に読みやすくわかりやすい紙面づくりの編集方針

- ◆ 一般質問 (代表・個人) や討論は全て掲載し、簡潔明瞭とする。
- ◆ 行政用語は出来るだけ避け、必要な場合は注釈をつける
- ◆ 巻頭ページには、地域の人や団体の記事を掲載する
- ◆ できるだけ写真を使い、スペースを十分に確保する

### その他の広報

- ◆ CATV 放映 (生放送で、市内全域)
- ◆ インターネット中継
  1. システム方式による中継および VDO 配信
  2. スマートフォンによる視聴開始

視察を通じて、市民に対して手に取って見てもらうための共通として、やはりどこもスペースを大きく取り文字数を減らし、さらに文字を大きく、見やすさを重視。一般質問に関しても、何を質問し、どんな答弁があったか、見出しをみれば理解できる構成となっている。文字を詰め込むより読みやすいというような直観的な感覚にとられる。また、特集として南丹市議会だよりでは、頑張る人たちをテーマに、市民との交流を大切に、市民の中に飛び込んで企画している。まだまだ、改革の余地はたくさんあると感じた。今後、三豊市の議会だよりの改革に大きく参考になった。

## 議会広報委員会行政視察研修 所感

委員名	市川 洋介
1、研修日程	令和5年11月8日(木) 13:30~15:00
2、研修先	岡山市美咲町議会
3、研修目的	議会だよりについて、YouTube 動画配信について
4、研修所感	<p>岡山県久米郡三咲町は岡山県の中央部に位置する町で卵かけご飯の発祥の地として知られている。人口は12000人で2005年に久米郡中央町、旭町、棚町が合併した。町の名目の由来は美しく咲く町として名付けられた。</p> <p>議会だよりは平成17年8月号に創刊し現在74号まで発刊している。</p> <p>新しい取り組みにチャレンジしていて出前議会や子ども議会を開催し議会だよりに子どもの意見を掲載して市民の声を議会だよりに反映させている。</p> <p>また、美作大学と協定を結びワークショップなど実施。美作高校と三咲町議会とSGDsの合同研修会などを実施して成果を掲載して市民に開かれた議会として常に新しいことに取り組んでいる。</p>
1、研修日程	令和5年11月9日(木) 10:00~11:30
2、研修先	京都府南丹市議会
3、研修目的	議会だよりについて
4、研修所感	<p>南丹市は京都府のほぼ中央部に位置し北は福井県、滋賀県南に兵庫県と大阪府、西に綾部町、南丹波町、東に京都市と亀岡市に隣接した緑豊かな自然に恵まれた地域で大半は丹波山地が占めている。少子高齢化が進み人口減少で人口は30000人である。</p> <p>議会だよりは『かけはし』というネーミングで市民に親しみやすく身近に感じていただけるよう文字数を減らすなど分かりやすい記事に心がけている。</p> <p>議会だよりの中に『頑張る人たち』という特集を組んで『行政、議会に期待すること』で市民の声を紙面に反映させている。</p> <p>総括ページでは『議会ではこんなことが決まりました。』という市民に分かりやすいように掲載また、議論で反対討論、賛成討論を議員の名前を掲載して議員の意見もきちんと掲載している。</p>

※所感の提出については、メールまたはUSB等によるデータで事務局に提出ください。

## 議会広報委員会 行政視察研修所感

委員名	湯口 新
<p>1 研修日程 令和4年11月 8日(水)・9日(木)</p> <p>2 研修先 岡山県美咲町議会 京都府南丹市議会</p> <p>3 研修目的 美咲町議会：議会だより、動画配信について 南丹市議会：議会だよりについて</p> <p>4 研修所感 《美咲町議会》</p> <p>広報委員の皆様で横断幕で出迎えていただき、記念撮影からスタートした。そして全議員がSDGs バッチをつけている。視察研修の受け入れから歓迎の意と共にSNSでの発信も意識した対応に驚き、その広報意識の高さがすでに勉強になった。</p> <p>広報では町村コンクールで何度か入賞しており、視察は広報も多いとのこと。広報には町民参加のページがあり、また表紙写真は極力町民の写真を掲載し、最後のページには子どもの写真を掲載することで町民が手にとりやすくしている。</p> <p>メディアミックス・ユーチューブの取り組みについては、過去から広報はより多くの町民が興味を持てるよう取り組んでおり、その結果多くの賞を受賞できるようになったため、次はメディア媒体を見直したとのこと。ケーブルテレビ、告知放送(朝昼晩)、データ放送(文字情報)、SNS(インスタ・フェイスブック)、ユーチューブ、プレスリリース。これらを組み合わせたメディアミックス構想を掲げてパブリックリレーションズを目指している。</p> <p>また議会アンバサダー制度はSNSを活用し、議会広報を若い世代に発信してもらうための施策。住民からもユーチューブを見た、などの声が届き、他の議員のモチベーション向上にもなるという。デジタル化、脱炭素化、の波にも負けないデジタルデバイスのない議会を目指している。</p> <p>小学生の議会体験学習では中学生が議員となって質問したり、ユーチューブを町営みさきテレビのスタジオで撮影し放映したりするなど、いろんなことを試している。広報紙だけではダメだ、という気持ちで、全世代に届くよう努力していた。</p> <p>全体を通して広報紙のみにとどまらず、できることをできるだけやろうとしており、先例にとられない活発な活動で町民に議会の事を届けよう、伝えよう、としていた。それを議会だよりにフィードバックすることでさらに充実した紙面づくりにつながっているようにも感じた。取り組みをすべて模倣することは難しいが、三豊市議会でもできることはまだまだあり、まずは大学や高校との連携協定によるアンバサダー制度や、視覚障がい者のための朗読ボランティアによる音源化の取り組みを障がい</p>	

者のためだけでなく、すべての市民がラジオ感覚で議会広報を聞けるようにするなどの提案をしていこうと思った。

#### 《南丹市議会》

平成 29 年 44 号から「頑張る人たち」を巻頭企画にするなど大幅リニューアルし、令和元年には「議会だより」から「かけはし」と名称変更するなど、市民に親しみやすい議会広報紙になるよう努めている。特集では写真をたくさん使うように変更し、対象やテーマは「定住支援」「文化活動」「農業」「ボランティア活動」などを行っている、主に団体としている。地域おこしにつながるような広がりや継続性のある活動をされているかがポイントとのこと。また、討論ページは、以前は倍くらいの文字数があったのを半分にした。市民の感想を聞くために挟み込みでアンケートをとったことがあり、若い世代が見ていないことがわかったため、若い人に見てもらいやすくするために写真を多くしてポップな感じにしていって。また、障害を持った方々との懇談会などで読みやすさを確認することもあるという。また広報だけでなく広聴についても質疑があり、トライ&エラーを繰り返して市民への伝え方を模索している様子であった。

全体を通して若い世代や障害をもった方々など多くの市民に議会活動を届けようという意識が高く、議会だよりのリニューアルや内容改善とともに、それをどう届けるかということにも注力していたのが印象的である。我々も広報の中身と同時に、作った広報をどう手にとってもらい読んでもらうかということまで頭に入れて活動をすると、より多くの世代に関心を持ってもらえる広報となり得るはずである。先進事例を取り入れながら市民に興味を持ってもらえる議会活動となるよう広報活動に努めたい。

※所感の提出については、メールまたは USB 等によるデータで事務局に提出ください。

## 議会広報委員会行政視察研修 所感

委員名	瀧本 哲史
<p>1、研修日程 11月8日(水) 13:15～15:00</p> <p>2、研修先 岡山県美咲町議会</p> <p>3、研修目的 議会だよりを充実させるためには YouTubeの配信について</p> <p>4、メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報委員会に新人の議員が多い。</li> <li>・メディアミックスを行っている。</li> <li>・議会アンバサダー制度を導入している。</li> </ul> <p>→大学生や高校生30名ほどを昨年から任命して活動してもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報委員会が議員から提出される文章を主旨が外れない程度に変更できる。</li> </ul> <p>→文章の適正を一定水準に保てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアミックスのチャンネルの豊富さが際立つ。</li> <li>・今後の展開は→特に紙の議会だよりを廃止にするということはない。</li> </ul> <p>5、研修所感</p> <p>特徴的な部分の一つに、メディアミックスがある。</p> <p>メディアミックスとは、簡単にいうと異なる複数のメディアを組み合わせた広告戦略で、例えば、広報紙とホームページなど複数のチャンネルを使って、情報の周知を幅広い層に伝えられ、相乗効果も見込めたりする情報発信の手法である。</p> <p>三豊市議会では、広報紙やHPの他に、YouTubeの動画配信なども行っている。美咲町は議会アンバサダー制度もを導入し、学生からの情報発信も行っている。つまり、あらゆる層に映像や紙面や口コミなどで、できるだけ沢山の町民に伝えようとしているところが、戦略的であり学ぶべきところだと感じた。</p>	
<p>1、研修日程 11月9日(金) 10:00～11:30</p> <p>2、研修先 京都府南丹市議会</p> <p>3、研修目的 議会だよりの見やすさ(レイアウト)を学ぶ</p> <p>4、メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度議会だよりをリニューアルした。</li> <li>・議会が注目した事業が分かりやすいレイアウト</li> </ul> <p>→注目する内容は、はっきり選定基準があるわけではない。</p> <p>それなりに自然に決まっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レイアウトや色が見やすく感じる。</li> </ul> <p>→このレイアウトはパターン化して、次回以降にも作業効率が上がるようにする。</p>	

- ・まとまりがある 読みやすい

→統一感を意識している。色合いも意識してやっている。

#### 5、研修所感

今年度から議会だよりをリニューアルしたようだ。特筆すべきは、レイアウトである。その読み物を手に取ってもらうことがまず重要である。

次に、ページを開いて読んでもらうことに貢献する要素が、レイアウトである。

例えば、情報量が多すぎず少なすぎずにするため、できるだけ文字数を少なくまとめた文章の方が、パッと見て読みやすそうに感じる。

三豊市議会の議会だよりは、以前から文字数が多くて読みづらいという指摘があったので、この辺りから読み手の視点を意識したレイアウトに変更して、反響を得ることが良いのでは。

※所感の提出については、メールまたは USB 等によるデータで事務局に提出ください。